

令和5年度 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP) 共同 IR 報告書

テーマ：令和5(2023)年度「教育の質に係る客観的指標調査」の
問16に関するアンケートについて
報告日：2024年3月28日

標記の件について調査を行いましたので、下記の通りご報告いたします。

記

1. 調査の趣旨

第15回TJUP共同IR責任者会議において、2023年度第2回共同IR調査のテーマが令和5年度私学事業団「教育の質に係る客観的指標調査」の「⑩卒業生のキャリア(就職・進学)の状況の把握と教育活動の改善」と関連し、『「卒業生のキャリア(就職・進学)の状況把握と教育活動等の改善」に対する実施状況の調査』に決まりました。

会員校の現状の把握と過年度卒業生から意見を求めた内容をまとめました。新たな活動の検討等に際し、意思決定の根拠資料となるものと捉えております。

2. 調査対象

TJUP 会員校（私立大学 14、私立短期大学 4）

回答校 18 校（私立大学 14、私立短期大学 4）

※大学・短期大学で1回答の会員校があるため、回答総数は17になります。

3. 調査期間

令和6年2月19日（月）～3月1日（金）

4. 調査設問

（参考：「⑩卒業生のキャリア(就職・進学)の状況の把握と教育活動の改善」）

設問：卒業生のキャリア(就職・進学)の状況等に関する調査等を実施し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育活動との改善に反映させる仕組みを構築していますか。

ア 過年度卒業生に対するアンケート調査等

イ 卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査

- 1 ア・イいずれも実施し、調査結果等を教育活動等の改善に反映させる仕組みがある。
- 2 上記には該当しないが、ア・イいずれも実施している。
- 3 上記のいずれにも該当しない。

(全体)

問 1 令和 5 (2023) 年度「教育の質に係る客観的指標調査」の問 16 の回答

(過年度卒業生アンケートについて)

問 2 現在の取組み状況

問 3 実施体制

問 4 実施方法

問 5 問 4 でその他と選択した場合の方法

問 6 アンケート対象学年

問 7 回答率と工夫

問 8 アンケート結果の公表

問 9 最も知りたい情報

問 10 回答者の秘匿性

問 11 結果を反映させる仕組み

問 12 具体例

(卒業生の就職先への意見聴取等調査について)

問 13 現在の取組み状況

問 14 企業等へ意見を聴取する方法

問 15 その他の方法

問 16 意見を聴取する就職先等の選択方法

問 17 アンケート結果の公表

問 18 特に知りたい情報

問 19 結果を反映させる仕組み

問 20 具体例

(回答者情報)

問 21 大学名

問 22 担当者

*コメント等に関して。問 21.22 へのコメントは除く。

5. 調査項目

※必須回答項目

(全体)

◆問 1. 【必須】令和 5（2023）年度における「教育の質に係る客観的指標調査」の問 16 について、貴学ではどのように回答されたか教えてください。

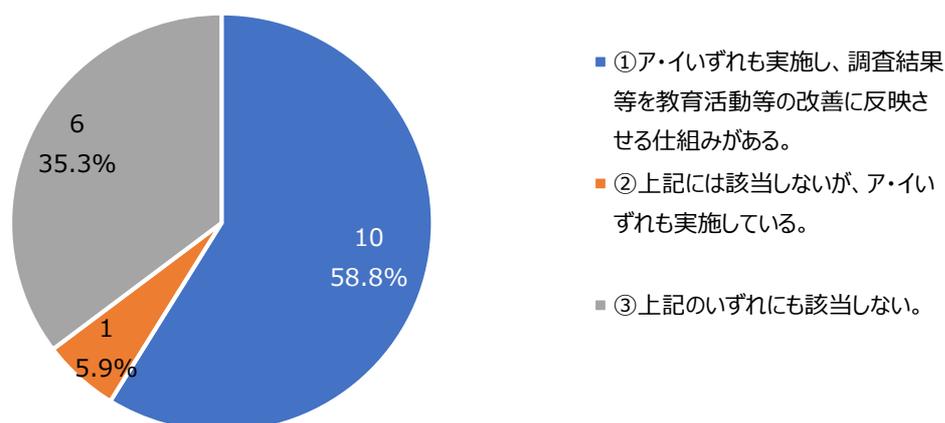
卒業生のキャリア（就職・進学）の状況等に関する調査等を実施し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育活動等の改善に反映させる仕組みを構築していますか。

ア 過年度の卒業生に対するアンケート調査等

イ 卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査

問 1※令和 5 年度「教育の質に係る客観的指標調査」の問 16 の回答	数	回答割合
①ア・イいずれも実施し、調査結果等を教育活動等の改善に反映させる仕組みがある。	10	59%
②上記には該当しないが、ア・イいずれも実施している。	1	6%
③上記のいずれにも該当しない。	6	35%
総計	17	100%

問1 令和5（2023）年度「教育の質に係る客観的指標調査」の
問16の回答



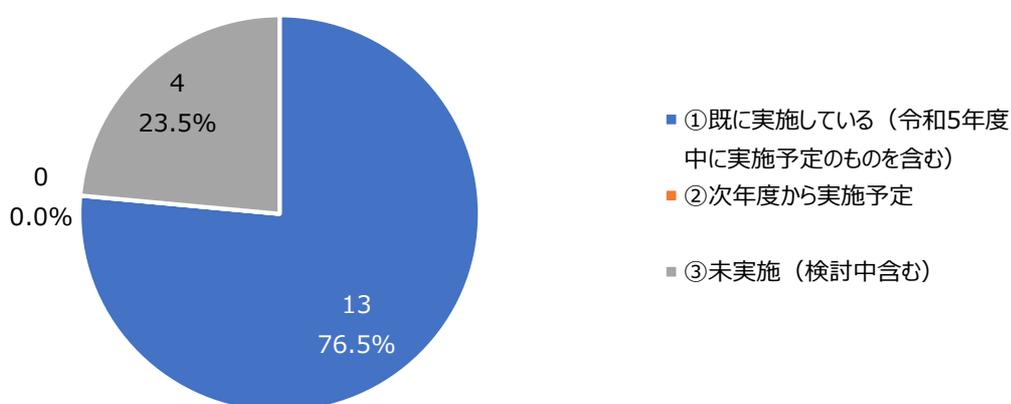
コメント：TJUP 会員校のうち約 6 割がシステムとして稼働させていることが判明した。これらのシステム活用で卒業生の意見反映がなされることは、現役生への良きフィードバックになることであり、大学運営の上でも大きなアピールポイントになると考えられる。卒業生の動向に関する情報管理の上でも重要な因子になってくる。約 4 割の③に回答した会員校は、①回答校との情報共有を進め、改善に繋がることが望まれる。

(過年度卒業生対象のアンケート)

◆問 2. 【必須】過年度（令和 4（2022）年度以前）の卒業生に対するアンケート調査についてお伺いします。現在の取組み状況を下記より選択してください。

問 2※ 現在の取組み状況	数	回答割合
①既に実施している（令和 5 年度中に実施予定のものを含む）	13	76.5%
②次年度から実施予定	0	0.0%
③未実施（検討中含む）	4	23.5%
総計	17	100.0%

問2 現在の取組み状況

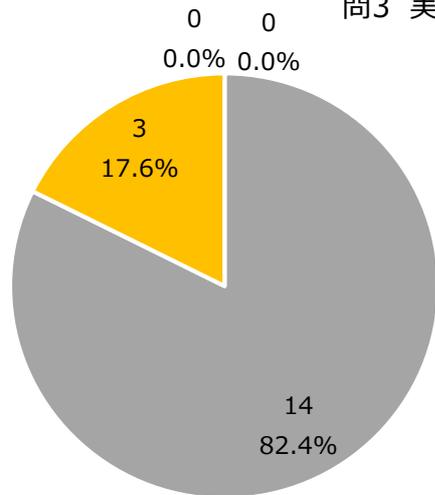


コメント：過年度卒業生へのアンケート調査は、4分の3の実施率であり、重要性が認識されてきていると考えられる。検討中の会員校も含め、TJUP全体で、情報収集のあり方や方法、妥当性など検討の機会が持たれることを期待する。

◆問 3. 実施体制について伺います。下記より一番近いものを選択してください。

問 3 実施体制	数	回答割合
① 外部業者へ分析業務含めて委託している（又はその予定である）。	0	0.0%
② 調査のみ外部へ委託し、結果の分析は学内の担当部局で行っている（又はその予定である）。	0	0.0%
③分析を含めて、学内の担当部局で調査に係る全ての事務を行っている（又はその予定である）。	14	82.4%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

問3 実施体制



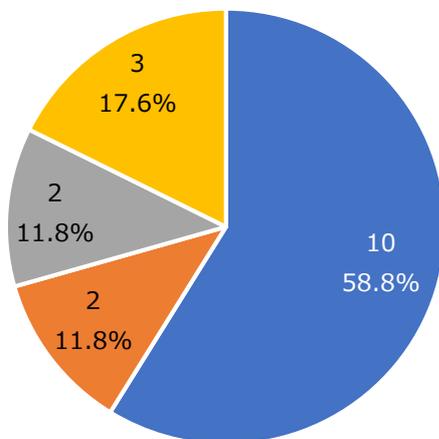
- ① 外部業者へ分析業務含めて委託している（又はその予定である）。
- ② 調査のみ外部へ委託し、結果の分析は学内の担当部局で行っている（又はその予定である）。
- ③ 分析を含めて、学内の担当部局で調査に係る全ての事務を行っている（又はその予定である）。
- 未回答

コメント：基本的に守秘義務、情報管理の観点から学内の担当部署の設置及び担当官の配置が必要となることから、組織的な対応が求められる。14の会員校で実施されていることは評価できる。

◆問 4. アンケートの具体的な実施方法を教えてください。

問 4 実施方法	数	回答割合
①Webで実施（インターネット経由）	10	58.8%
②郵送で実施（結果は返送等）	2	11.8%
③その他	2	11.8%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

問4 実施方法



- ①Webで実施（インターネット経由）
- ②郵送で実施（結果は返送等）
- ③その他
- 未回答

コメント：実施方法は多様化しているものの個人情報保護の観点から、セキュリティに配慮されていると思うが、今後、全体で検討し、共通認識をもって対応されることを期待する。

◆問 5. 問 4 で「③その他」を選択された方、その他の方法について教えてください。

問 5	問 4 でその他と選択した場合の方法
回答内容	文書で調査依頼を行い、回答については Web 利用して行っている。
	依頼は「郵送（文書）」、回答は「Web」で実施

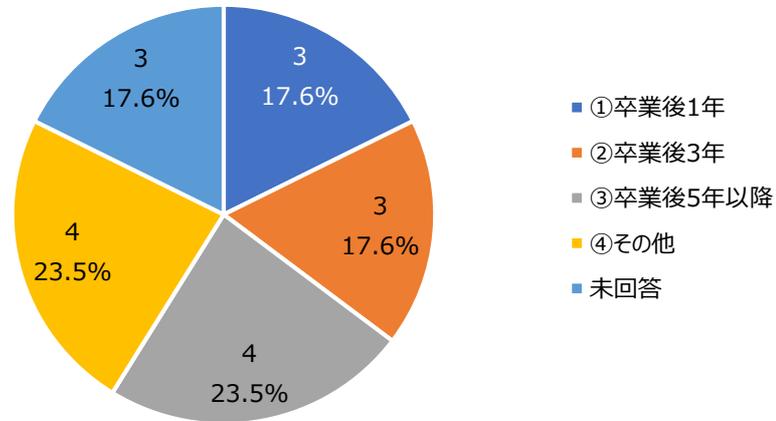
コメント：コスト面も含め、各校で工夫がなされている。

◆問 6. アンケートは何年度（卒業後何年経過）の学年を対象にしていますか？

問 6 アンケート対象（卒業後経過年数）	数	回答割合
①卒業後 1 年	3	17.6%
②卒業後 3 年	3	17.6%
③卒業後 5 年以降	4	23.5%
④その他	4	23.5%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

問 6 アンケート実施対象	具体的回答内容
① 卒業後 1 年 回答内容（3 件）	主に卒業後 1 年目を対象
	2021 年度卒業生（卒業後 1 年経過）
	1 年
② 卒業後 3 年 回答内容（3 件）	卒業後 3 年を経過した学年を対象としている
	卒業後、3 年を経過した卒業生に実施
	卒業後 3 年経過の学年
③ 卒業後 5 年以降 回答内容（4 件）	卒業後 5 年、10 年、20 年
	2015 年度卒、2017 年度卒、2019 年度卒
	5 年
	卒業が決定した 6 年生を対象に実施している。
④ その他 回答内容（4 件）	卒後 3, 5, 7 年目
	全卒業生を対象
	未定（検討中）である。
	卒業後 1・3・5 年目。

問6 アンケート対象学年

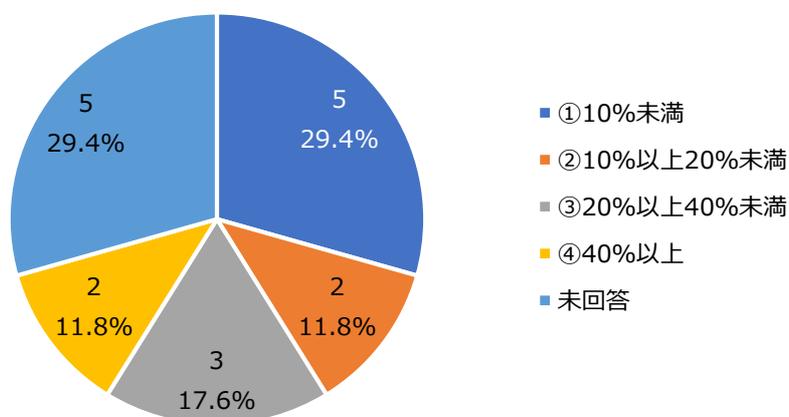


コメント：卒後のアンケート実施には様々な阻害因子が伴う。各校の進路の特徴もあり、動向把握に寛厳度が生じていることが推測できる。卒業年度に加え、その実施時期や、回数など現状を部分的に情報共有するなど TJUP 特有の調査として行い調査結果の有効活用に至ることを期待する。

◆問 7. 直近で実施したアンケートの回答率は何%でしたか？回答率を上げるための何か工夫等ございましたら教えてください。回答を入力してください

問 7 回答率と工夫	数	回答割合
①10%未満	5	29.4%
②10%以上 20%未満	2	11.8%
③20%以上 40%未満	3	17.6%
④40%以上	2	11.8%
未回答	5	29.4%
総計	17	100.0%

問7 回答率と工夫



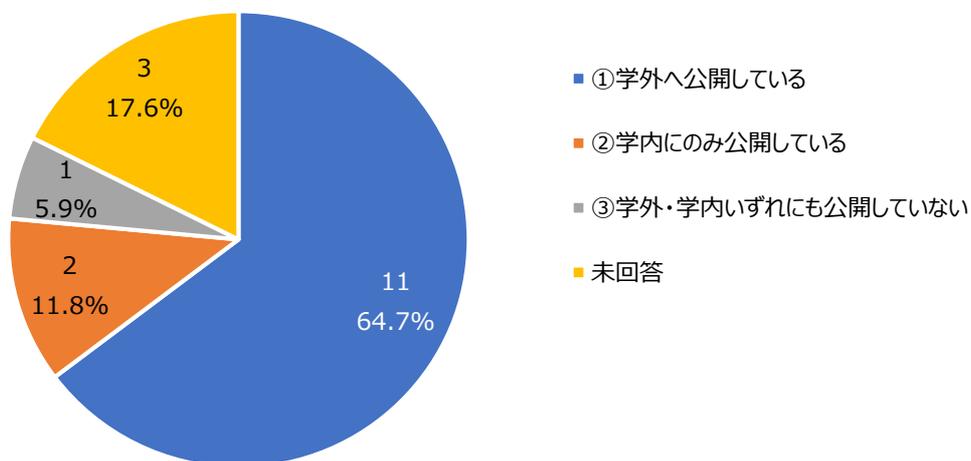
コメント：この類の調査の難点は、アンケート結果の回収に係る手間である。回答率で表現されるが40%以上に到達している会員校の工夫は、他の模範となり得ることから、具体的回答内容を参考に、共同IRを通じ、ぜひ情報共有を図る機会が持たれることを期待する。

問7：具体的回答内容	
回答	具体的回答率や工夫など
① 10%未満	直近9.0%（前年は14%）。在学中から利用している学内メールを生涯メールとして付与し、それをアンケートでも利用しています。
	4%
	約3% 現在、検討中
	0.2%
	令和4年（2022）年度実施のアンケート回答率は約9%であり、第一段階は封書にて依頼し、さらに葉書で2回目の依頼を行った。
② 10%以上 20%未満	10% 現状特にしておりません。
	15%
③ 20%以上 40%未満	20.9%
	28% 各専門部会を通じて、卒業生の元担当教員に対し、卒業生個々へ回答促進の依頼をした。
	20% はがき QRコード読み取りでアンケート回答依頼、教員よりSNSで直接繋がりのある学生へのアンケート依頼等
④ 40%以上	45.6%
	100%。卒業生が一堂に会する機会に実施している。
その他	ホームカミングデーを開催する。

◆問 8. アンケート結果を公表していますか

問 8 アンケート結果の公表	数	回答割合
①学外へ公開している	11	64.7%
②学内にのみ公開している	2	11.8%
③学外・学内いずれにも公開していない	1	5.9%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

問8 アンケート結果の公表



コメント：アンケートは、実施したのであれば結果の公表は行うべきものである。情報管理上の対策は必須であるが、アンケート実施校では、全校で公開されることが望まれる。

- ◆問 9. 【必須】卒業生へのアンケートで、最も知りたいと考えている情報は何か？
 ※未実施（検討中含む）を選択された場合、今後卒業生のどのような情報があれば教育活動等の改善に活用できると思われるかご記入ください

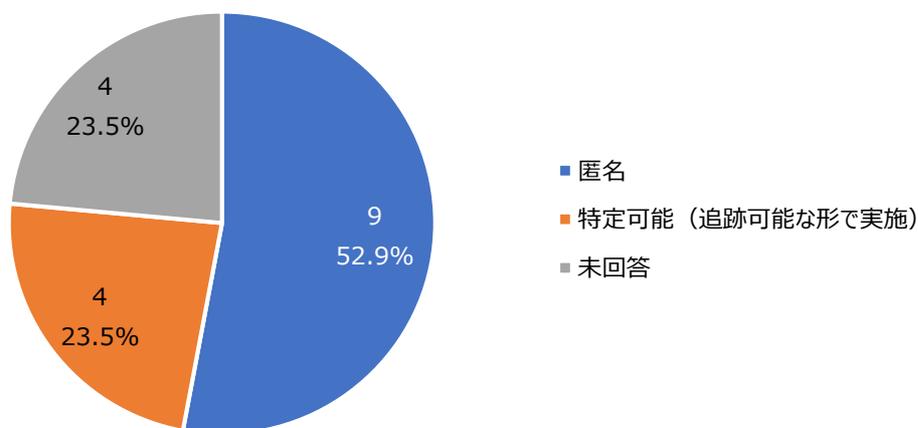
問 9	卒業生アンケートで最も知りたい情報
回答内容	卒業後のキャリア・仕事上と在学中に学修したことが活かされているかどうか・在学中に学んでいたことを卒業後も継続しているかどうか
	在学中に受けた教育内容等が、現在の仕事・卒業後の活動に活かしているか。
	本学で身につけた力、実務に役立っている在学中の経験、本学に対する在学中の満足度について。
	現在の仕事（進路先）において生かされている本学での学びや経験
	今の仕事を遂行する上で、在学中に教わっておいてよかったと思う事柄はなにか。
	在学中の学びの満足度（10点満点で採点してもらいます）。
	本学への学びの評価
	教育内容の満足度。
	教育課程編成上で身に付く力と就業後に身に着けたいと思っている力
	毎年、本学の教育の質を測る一方策として、卒業生の成長実感や満足度を調査することを目的に行っている。
	今後の教育活動等の改善のための情報
	卒業生の満足度が今後の教育活動等の改善に活用出来ると思う。
	理念や目的・D Pなどが、身についたもしくは身についたと思うなどの本学の教育成果が確認できる情報。
	進路・就職活動中で望むサポートと就職後に考える在籍時の学習成果について
	勤務先で求められていると思う能力、学生時代に身に付けておきたかった力
	・現在の満足度（5段階）について ※進路報告の段階で内定先企業の満足度を聞いているため、その比較となる ・在学時にやっておけば良かったと感じることについて
定着状況（離職懸念）	

コメント：この問いは、このアンケートの重要なポイントである。今後のそれぞれの大学運営に非常に参考となる内容を得ることができる貴重な機会として取り組まれることを期待する。さらに、ディプロマ・ポリシー改訂に大きく影響する内容が含まれていると思われるので、共同で検討される事も有効と考える。

◆問 10. アンケートの回答は匿名ですか？それとも特定可能な形で実施していますか？

問 10 回答者の秘匿性	数	回答割合
匿名	9	52.9%
特定可能（追跡可能な形で実施）	4	23.5%
未回答	4	23.5%
総計	17	100.0%

問10 回答者の秘匿性



コメント：卒業生（回答者）に対する秘匿性は、セキュリティ上の配慮について各大学のセキュリティポリシーやアンケートの内容によっても異なるが、社会通念や社会情勢による変化への対応も必要とされる。全体での検討に値すると捉えている。各校でどのようなアンケートを実施しているかも情報交換を行いたい。

◆問 11. アンケート結果に基づき、具体的な改善活動や取組みを実施し、調査結果を教育活動等の改善に反映させる仕組みがありますか？

問 11 結果を教育活動の改善に反映させる仕組み	数	回答割合
①ある	10	58.8%
②ない（検討中である）	4	23.5%
③ない（次年度以降検討又は予定なし）	0	0.0%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

コメント：結果を反省させる仕組みは、アンケート結果の分析から、大学運営に関わる部署への重要な情報提供となり得ることと中長期計画の骨子に関わるという認識醸成にもつながると考える。

◆問 12. アンケート結果は既に分析されましたか？結果から得られた考察、どのように教育活動の改善に活かしたか、具体的な例があれば教えてください。

問 12	アンケート結果の分析の有無、結果から得られた考察、教育活動改善等の具体例
回答内容	結果は得られたが、教育活動の改善にまでは至っていない。
	分析・報告はしたが、改善などには活かしていない。
	年度毎の分析し、複数年度分の比較分析も行っているが教育活動の改善についての具体例は現在のところ有していない。
	分析済み。就職支援講座のプログラムや内容等の改善に活用している。また、就職先の状況等を確認して就職担当部署で情報共有し、学生への進路指導等に活用している。
	本学における学生生活に対する満足度は、非常に高いため、今後も維持できるように取り組む。分析結果は、キャリア支援委員会を中心に全学的に共有している。
	カリキュラム編成やキャリア教育編成の参考にしている
	学びの満足度と後輩への推奨度のクロス集計を含めた資料を作成し、学長を議長とする全学教育推進会議に報告しています。その後、副学長会等にも状況に応じて報告するとともに、学内教職員限定の HP へ公開しています。各会議体で改善すべき課題は何かについて議論するなどし、教育諸活動の見直しに活用しています。
	ゼミ、授業などにおいて各教員が在学生へアドバイスする際の参考として活用している。
	各種会議等で報告し、各部局で活用している
	委員会と教授会・自己点検評価委員会での次年度の計画として検討している。
	アンケート結果の考察と課題についても具体的な内容を明記しホームページに公表することにより、教職員及び学生と共有し改善をはかっている。
	アンケート結果について、教授会等の会議に報告しており、各分野の主任教授をはじめ情報を共有している。

コメント：具体的回答内容には、各会員校の使命・目的を達成するために行うことが多く含まれており、他の会員校で取り組まれている活動、業務内容は、大変参考になると考えている。

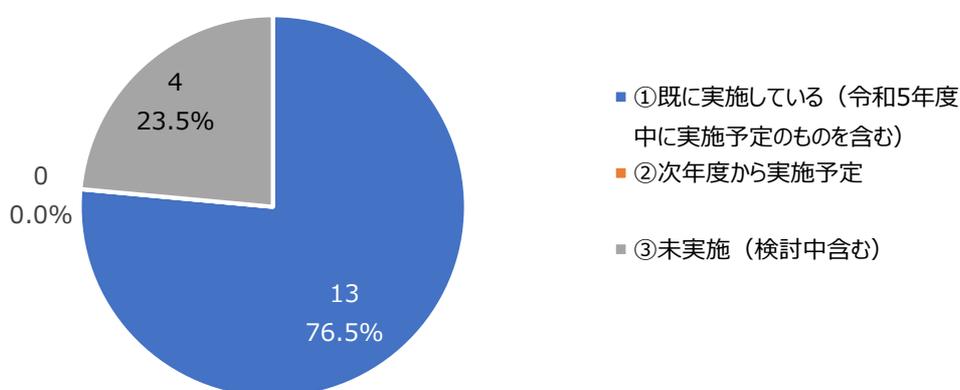
(卒業生の就職先への意見聴取等調査について)

◆問 13. 【必須】卒業生の就職先等への意見聴取等調査についてお伺いします。

現在の取組み状況を下記より選択してください。

問 13 現在の取組み状況	数	回答割合
①既に実施している（令和 5 年度中に実施予定のものを含む）	13	76.5%
②次年度から実施予定	0	0.0%
③未実施（検討中含む）	4	23.5%
総計	17	100.0%

問13 現在の取組み状況

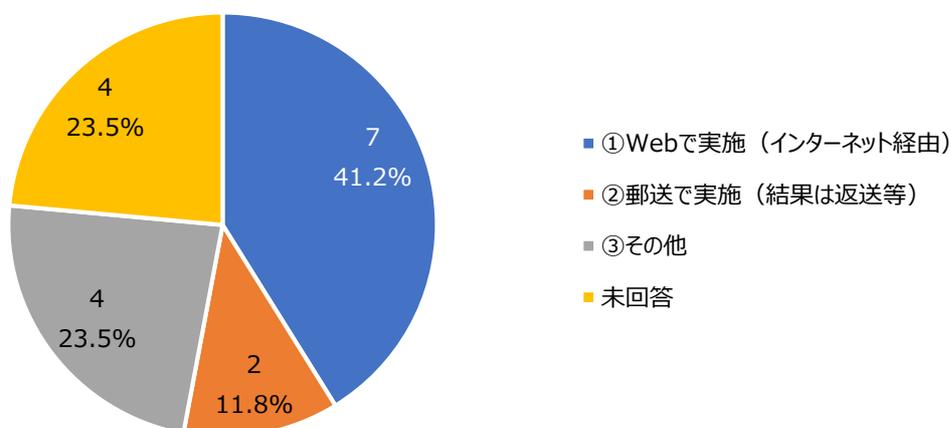


コメント：過年度卒業生へのアンケート調査は、4分の3の実施率であり、重要性が認識されてきていると考えられる。検討中の会員校も含め、TJUP 全体で、情報収集のあり方や方法、妥当性など検討の機会が持たれることを期待する。情報の有効活用がなされるのは当然のことであるが、就労先へのアンケート実施及び回答率から TJUP 会員校の意識の高さが伺える内容と捉えている。

◆問 14. 問 13 で①又は②を選択された大学さまへ伺います。企業等へ意見を聴取する際の方法について教えてください。

問 14 企業等へ意見を聴取する方法	数	回答割合
①Web で実施（インターネット経由）	7	41.2%
②郵送で実施（結果は返送等）	2	11.8%
③その他	4	23.5%
未回答	4	23.5%
総計	17	100.0%

問14 企業等へ意見を聴取する方法



コメント：実施方法は多様化しているものの、セキュリティ上の配慮について、今後、全体で検討し、共通認識をもって対応されることを期待する。

◆問 15. 問 14 で「③その他」を選択された方、その他の方法について教えてください。

問 15 問 14 で「③その他」を選択した場合の具体的方法	数	回答割合
①Web および紙	3	17.6%
②対面ヒアリング	1	5.9%
未回答	13	76.5%
総計	17	100.0%

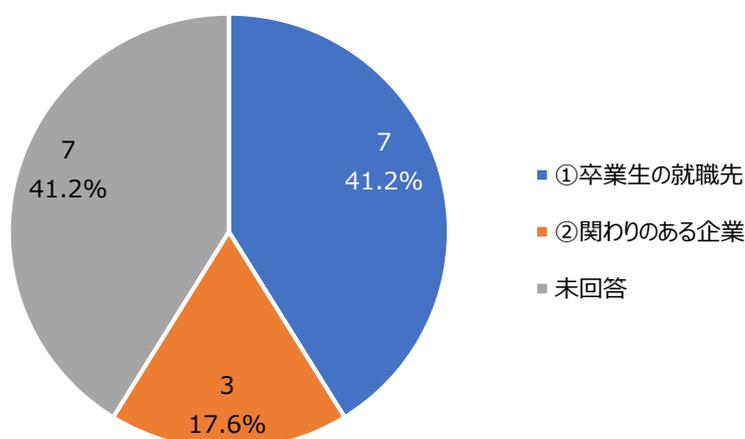
問 15 その他の方法	具体的回答内容
①Web および紙	Web および紙
	質問紙を郵送し、Web または FAX で回答
	企業の状況に合わせて Web と郵送で実施。
②対面ヒアリング	就職支援課職員が企業訪問等の際にヒアリングし、結果は学内の Web 定型シート (IR で管理) に入力しています。

コメント：特になし。

◆問 16. 意見を聴取する就職先等はどうに選択されていますか？

問 16 意見を聴取する就職先等の選択方法	数	回答割合
① 卒業生の就職先	7	41.2%
② 関わりのある企業	3	17.6%
未回答	7	41.2%
総計	17	100.0%

問16 意見を聴取する就職先等の選択方法



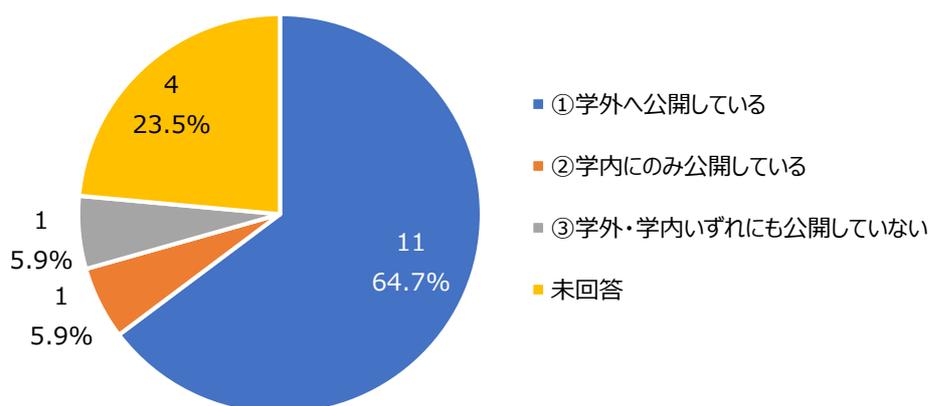
問 16	具体的回答内容
① 卒業生の就職先	卒業生の就職先（3年間）
	前年度卒業生の就職先
	調査を実施する前々年度卒業生（卒業後満1年）の就職先。
	卒業生の就職先のうち公立・一般企業を除く、幼稚園・保育園・認定こども園・障害者（児）施設
	原則として前年度卒業生の就職先企業・団体すべて。
	原則的に、すべての就職先に実施している。
	卒業生の就職先企業
② 関わりのある企業	本学と関わりのある企業全体の中から、就職支援課職員が必要と考える企業等様になります。
	本学で開催される企業研究会へ参加された企業
	就職説明会に参加した病院等

コメント：大学・短期大学の学部構成により、就職先の業態が限局される場合と多岐にわたる場合があり一概にまとめきれないが、業種により離職・休職が常態化していることもあり、今後検討されるべき課題であると思われる。ただ、TJUP 全体よりは、領域別の集まりなども検討されたい。

◆問 17. アンケート結果を公表していますか？

問 17 アンケート結果の公表	数	回答割合
①学外へ公開している	11	64.7%
②学内にのみ公開している	1	5.9%
③学外・学内いずれにも公開していない	1	5.9%
未回答	4	23.5%
総計	17	100.0%

問17 アンケート結果の公表



コメント：アンケートは、実施したのであれば結果の公表は行うべきものである。情報管理上の対策は必須であるが、アンケート実施校では、全校で公開されることが望まれる。

◆問 18. 【必須】卒業生の就職先等への意見聴取等調査で、特に知りたいと考えている情報は何か？

※未実施（検討中含む）を選択された場合、今後就職先からどのような情報が得られれば教育活動等の改善に活用できると思われるかご記入ください。

問 18	卒業生の就職先等への意見聴取等調査で、特に知りたいと考えている情報
回答内容	卒業生の学習成果と卒業生の動向
	本学が学生に提供した学びの内容が、就職先にとっても有用なものであるか。
	教育の成果（保育者としての専門的技術）及び今後の課題

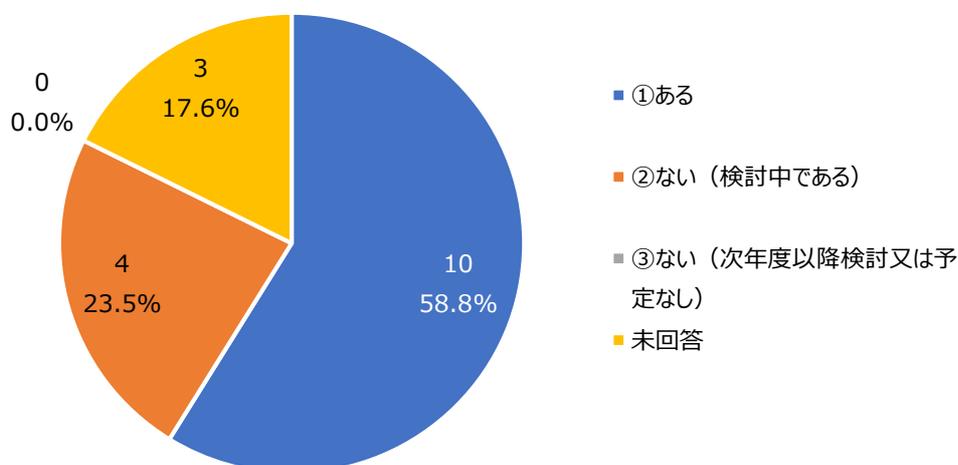
本学卒業生の仕事における評価、採用時に重視している能力
卒業生の就職先における定着率について・卒業生のキャリアアップの実情について
教育の成果確認と今後のカリキュラムの目標設定の参考としているが、講評はしないものの自由記述で大学への意見記入欄もあり、授業計画・進行、学生支援の参考としている。
本学卒業生の社会人基礎力について、卒業時点でどの程度充足できているか。今後特にのびしろを期待されている部分はどこか。
他大学出身者と比較して、本学卒業生の優れている点、見劣りする点。
卒業生が特に身に付けている能力や活躍している様子、企業様の求める能力
より効果的な就職支援策、企業からのニーズを踏まえた教育改善のための情報
企業等が要望する大学に実施してもらいたい教育内容について
本学はホスピタリティ教育を専門教育と同様に重視しています。貴所におけるホスピタリティの実践に関して、大学生のあいだに取り組んでおくべきと思われることをご教示いただきたい。
採用にあたって重視する点、能力
就職先等が求めている力や本学生に対する満足度について。
社会人基礎力はどの程度あるのか。リーダーシップやチームワークの情報が得られれば活用できると思う。
社会人基礎力
ディプロマ・ポリシーに対応した学生を輩出しているのか。また、他大学の卒業生と比較した場合はどうか。
卒業後1年間は歯科医師卒後研修が義務付けられている。意見聴取等調査の実施については未検討

コメント：この項目に関しても、大学・短期大学の学部構成により、就職先が限局される場合と多岐にわたる場合がある。それぞれの大学・短期大学での工夫もさることながら、領域別の検討会開催など、特徴的な検討も期待したい。

◆問 19. 調査結果に基づき、具体的な改善活動や取り組みを実施し、結果を教育活動等の改善に反映させる仕組みがありますか？

問 19 結果を教育活動等の改善に反映させる仕組み	数	回答割合
①ある	10	58.8%
②ない（検討中である）	4	23.5%
③ない（次年度以降検討又は予定なし）	0	0.0%
未回答	3	17.6%
総計	17	100.0%

問19 結果を教育活動等の改善に反映させる仕組み



◆問 20. 結果は既に分析されましたか？結果から得られた主な考察、どのように教育活動の改善に活かしたか、具体的な例があれば教えてください。

問 20	アンケート結果の分析の有無、結果から得られた考察、教育活動改善等の具体例
回答内容	資料を作成の上、学長を議長とする全学教育推進会議に報告しています。また、就職支援委員会にも資料を提供し、就職支援改善等ために活用するとともに、学内教職員限定のHPへ公開しています（学外へも簡易版を公開しています）。各会議体で改善すべき課題は何かについて議論するなどし、教育諸活動の見直しに活用しています。
	社会で求められている能力を科内会議等で共有し、学生指導や教育内容の検討に活用している。
	分析済み。就職支援講座のプログラムや内容等の改善に活用している。また、就職先の状況等を確認して就職担当部署で情報共有し、学生への進路指導等に活用している。
	考察：本学の教育内容・指導に関する改善要望については、ピアノ技術指導等の在学時の成績との相関が高い。資質として求められるのは、明るく元気な点を求められることが多い。 改善：「明るく元気な」資質を育てられるよう元気な挨拶を学生生活全般を通じて心がけるよう教職員全員で行うようにした。また、ピアノ個別レッスンの一層の充実、ピアノ演習室をいつでも使用できるようにする。
	アンケート結果についてはホームページで公表している。結果の反映については、自由記述の意見も含めて各学部ベースで授業進行・シラバス作成、カリキュラム編成とし、就職支援にも活用している。

	カリキュラム編成やキャリア教育編成の参考にしている
	具体例は特にありません。
	分析・報告はしたが、改善などには活かしていない。
	各種会議等で報告し、各部署で活用している
	委員会での検討し、課題を次年度の計画として検討
	現在、アンケート実施中のため、3月中に分析および各委員会等で報告の予定。

コメント：結果を反映させる仕組みは、アンケート結果の分析から、大学運営に関わる部署への重要な情報提供となり得ることと中長期計画の骨子に関わるという認識醸成にもつながると考える。

6. まとめ

今回のアンケートは、令和5（2023）年度「教育の質に係る客観的指標調査」における設問のひとつである「卒業生のキャリア（就職・進学等）の状況の把握と教育活動等の改善」に着目し、各校における対応や取り組みを深く掘り下げて分析することにより、会員各校相互の情報交換、ならびに一層の教育改善や情報公開に資することを目的に行われた。

卒業後調査や企業アンケートは令和4年度より「私立大学改革総合支援事業（タイプⅠ）」から「教育の質に係る客観的指標」へ移行し、経常費補助金の配分基準の増減率に影響する。つまり、学修成果の可視化や内部質保証に必要な重要項目として位置づけられているが、調査の実施や分析には煩雑な事務作業やノウハウを必要とされている。また実施後においても教育改善に向けたPDCAサイクルを回すには、執行部や委員会といった様々な学内組織の理解と協力が不可欠であり、ガバナンスの確立なくして実現は容易ではなく、各校の大きな負担となっていることが教育改善施策の妨げとなっているのではないか、という点が課題であると思われる。

調査結果から得られたものは、TJUP全体での取り組みとして、組織立った活動にしていく必要があることが示唆された。固有の資格・職業に就くための教学プログラムを運営されている会員校においては、出来れば関連業種も含め、情報共有の機会を設け、協力関係を構築していただきたい。また、TJUPではFD・SD活動として教学マネジメント体制の確立事例のセミナーが行われており、会員校相互の教育改革活性化に寄与している。教育・学生支援や就職支援推進事業が進んでいる会員校には、是非積極的に情報発信をお願いしたい。

TJUP会員校が地域に根ざした大学運営を継続され、今後のさらなる発展のために、本報告書が活用されることを期待する。

以上